

今こそ やっぱり PTA! PTAっておもしろい!!

今のPTAで何が課題? 悩みは何でしょう。

- 一つは、私が子どもの頃のお母さんたちの生活パターンと、今のお母さんたちの生活パターンが変わっていて、仕事をしている人たちが多く、PTA活動すること自体に大きな負担を感じている。それと、幼稚園の母の会役員の延長線上で「先生のお手伝い」的な発想のまま学校に来ているので、PTAの本来の趣旨というか、「みんなで子どもたちを育てよう」というところまで、気持ちがついてきていない。
- 子どもが小さい時から、子どもが仲よくて、なおかつお母さん同士も仲がいいとグループ化する傾向もあるし、それぞれの幼稚園にも特色がある。お母さんと子どもを仲良くさせて一緒に活動する幼稚園もあるし、「お母さんお仕事へ行って下さい」「やれることはやってください」という幼稚園もある。役員におんぶに抱っここの幼稚園もある。だから一步踏み込んでPTAというのが、学校のお手伝いさんになるか、「幼稚園の時みたいにはベツタリできない」という人もいるし、「幼稚園を卒業したので母親として自由時間を確保させてほしい」という人もいる。
- 委員のなり手がいないとか、役員の引き受け手がいないとか、そういう悩みはありますか。
- 毎年、12月くらいからざわざわし始めて、3月の最後の保護者会は空気悪い感じですね。4月に入って委員決めをしましょうという保護者会には、一体何人の出席者がいるのか、出席したら貧乏くじを引いてしまうという感じですね。
- うちのPTAは6年間で子ども1人につき一回は委員をやりましょうということになっている。学校を知るためにも。いつ委員をやったというのを提出するので、委員をやっていない人が明らかになってしまう。5・6年になるとほとんどの人が委員をやっているの、さあ2回目を誰がやりますかということになります。
- フルタイムで働いている人は、本当にPTA活動をするのは厳しい。そういう人を免除していこうとすると、「働いているお母さんばかりひいきして」という意見が出る。「働いていない人ばかり委員をやらされて、ずるい。同じように子どもがいるのに」という意見も出る。やれる人がやれる範囲でやりましょうというような言葉かけをいろいろしているのですが、実際委員を引き受けるとクリアしなければならぬことがいくつかあるので、それがもう負担だと言われる。拳句の果てにはクジ引きで決めて、委員になった人がみんな働いている人ばかりだったりすると、活動がうまくいかない。
- 社会的にPTA活動をするとか、女性が働くということが普通に認められていけば、働いていてもPTAはできるという状況を作れる。まだまだ日本の社会はそういうところまで達していないから難しいのでしょうかね。
- うちの学校は80%くらいがサラリーマン家庭なので、父親がPTA委員・役員を引き受けるといのは厳しいですね。
- PTA活動のために休みを取るといのは難しい。
- 男性だって働きすぎで地域とのつながりを全く作れないというような働き方は見直しましょうという動きはあるはず。現実には程遠いにしても、女性だっていくらフルタイムで働いていたにしても、地域のつながりをもてるような働き方をしなくてはならない。
- 以前からフルタイムで働いている人もPTA活動に参加していた。働いている人でも、「やれることはやりたい」と積極的な人はいる。
- 「家に持ち帰ってやることだったらできます」と広報委員を引き受ける人もいた。働いている人に



とっては、広報紙で知る情報は頼りになるので毎回読んでいます。だから何かお手伝いすることがあればと手を上げる人もいます。

- 働いていると地域の人との関係がなかなかできないから、積極的にPTA活動に出てきて、そこで地域の人とのつながりを作りたい、地域や学校での子どもの様子も知りたいと考える人がいる。



「お互い様よね」と言い合えるような関係を

- 今、PTAを義務的なものとしてとらえ、委員をすることに非常に負担感を感じている人が多い。それは、時間的な拘束が多いということだけではなく、嫌々義務でやらなくてはならないと思うからではないのか。楽しいことならこんなふうにはならないと思うんだけど。
- 働いているお母さんと働いていないお母さんとの温度差がすごい。働いていないお母さんは、「働いているお母さんがPTAに来ない分、私たちがやらされている、負担をかぶっている」と。働いているお母さん側からすると、自分の時間をやりくりして何とか出てこようとしているけど、出て来られないことに対する申し訳ないという気持ちがすごくある。
- 引き受けても出られなくて罪悪感だけが残るのだったら、もう最初から引き受けないことにしよう。
- その時、その時の委員会などの雰囲気などにもよると思います。温度差がありすぎて雰囲気が非常に悪かったり、逆に「お互い様だよ」と言って、うまくやって楽しい雰囲気でできる委員会もあったり。うまく方向付けしてあげられたらいいのですが、毎年新しいメンバーが入れ替わって入ってきて、最初から嫌々で「来て上げたわよ」みたいな人もいます。PTAは義務じゃないんだから、そんなに嫌なら来なくてもいいと思ってしまおう。
- 趣味の集まりだったら、同じことが好きで同じことをしようと思って集まるけれど、PTAというのは、いろいろな考え方やいろいろな立場の人が集まっているところ。背負っているものもみんな違う。そういう人が集まってやっていくのだから、そこがおもしろいんだけど。働いている人と働いていない人との間に溝があるのならば、「お互い様よね」と言い合えるような関係を作ることがPTAの大きな役割の一つだと思う。いろんな考え方の人がいるけれど、お互いに「そうだよ」と共感しながら、何か進めていけるように。その為に何をしたらいいでしょうね。

委員会の仕事で負担に感じるのはどういうところ？

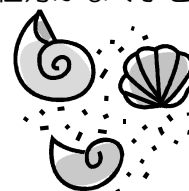
- 役員会は総会までの最初のセッティングをして、後は各委員会にお任せする。各委員会に対してあしろうしろと言う権限はない。運営委員会などの定例会で各委員会からの意見を聞いて、学校とのパイプ役を務めるというような役割はありますが。
- それは非常に健全な役員会ですね。PTAによっては、余計な仕事をいっぱい引き受けてしまっている役員会もある。学校行事のお手伝いをいろいろ役員が引き受けてしまっているところもある。そうすると役員の負担はすさまじいものになる。
- 委員会の仕事で負担に感じるのはどういうところなのでしょう？ 集まって何かを決めていくこと？
- 学校に来ること自体がうっとうしい、負担なのだと思います。そのために自分の時間をさくというのが嫌なんだと思います。それと責任を負わされるのがいや。委員を引き受けたらやらなければならないという気持ちが重荷なのだと思います。
- その年引き受けた委員の人たちで何をやるかを決めればいいんだと最初に説明するのですが、前年度までやってきたことを変えられない。
- 自分たちの代でやり方を変えるのは嫌なんですね。誰かが変えてくれればそれを踏襲するけれど。
- どうして変えたのかと聞かれた時に「今年のメンバーではこれまでどおりやるのは無理だった」と言ってくれたらいいのだけれど、それは嫌みたい。去年と一緒にいい。
- 校外委員をやった時に委員会便りを何回か出したら、「次にやる人が大変だから出さないでよ」と言

われた。今年出したからといって、次の人たちも出さなくたって構わないのに。そういう気の使い方をしますね。

いろんな人がいるということを知り合えるのがPTA

- 最近、所得格差が女性の生き方にも反映してきているような気がする。お母さんたちの活動にも反映してきていると思う。「今サラリーマンの奥さんで働かずにいられる人たちはとても恵まれている。働かなくてはいけない私たちは経済的に恵まれている人たちとは違う」というような意識が強いのだと思います。一方で夫の収入だけで子どもの教育費も出せるし、生活もまかなっていける人がいて、その人はPTAにすごくエネルギーを注ぎ込んでいる。PTAがある意味生きがいになっていて、その人のペースでPTA活動を進められてしまうと、働きながらPTA活動している人たちはついていけない。福祉などの社会制度の下支えがあって初めて、PTAも成り立つのではないかと最近思うようになりました。
- PTAってそんなに一生懸命やらなくてもいいし、一生懸命やってもいい。いろんな人がいて、いろんな子どもがいて、いろんな家があるから楽しいということを知ってほしい。
- いろんな人がいるということを知り合えるのがPTA。私も働きながら会長をやってきたから、働く人の身になって考えるとそんなに集まりを多くしないほうがいいと。でも集まった以上は話をきちんとしてほしい。生活の背景が違つとなかなかむずかしいかもしれないが、逆に相手を思いやるということが生まれてくると思うのだが。
- 相手のことを考えてあげられる余裕があるかどうかということではないか。学年活動どうするかという話をするより、「それよりパートに行つて一時間でも多く働きたい」という気持ちもわかる。そういうふうに頑張っているお母さんたちのことを、余裕がある人はもう少し思いやってほしい。それをどうして「あの人だけお仕事してずるい」というような発想になってしまうのか。
- 無理な人は本当に無理なんです。
- 「働いている人だけやらなくてすんでずるい」と考える人は、多分自らの意思で専業主婦というものを選んでないのではないかと。自分も働きに行きたい、社会参画したいと思つても、そういう立場を選べなかったというような専業主婦なりの悩みがあつて、欲求不満があるから、働いている人がうらやましい…というようなことがあるのかもしれない。私もPTAに関わる前は、自分だけが社会から取り残されているような孤立感があつて、頑張つて仕事をしている人たちがうらやましかったし、負い目もあつた。自分の中にある、そういう専業主婦としての孤立感や疎外感を客観的に見られるような機会があるといい。
- イヤイヤ委員になつて、最初はブスツとして座っているだけの人も、いろいろな話を聞くことによって心が開けて来るかもしれないし、授業参観を見てこれはおかしいなと思つてPTAに関わるようになって人もいるし、子どもの様子を知りたかつた人もいるし、なぜ忘れ物表があるのか疑問に思つてPTAに入つて学習したいと思つた人もいるし、誰もなり手がなくて仕方がなく手を上げて委員になつた人もいるし、いろいろな入り口がある。

活発な話し合いのできているクラスは、PTAの委員もすんなり決まる



- 先輩によく言われたのですが、「思っていることをちゃんとと言わないとわからない。今の人たちは言わなさ過ぎる。おかしいと思つたらおかしいと、いい考えだと思つたらいい考えだと言わなければ伝わらない」と。
- 自分より下の世代のお母さんたちは、群がることが多いですね。グループの中ではいろいろな意見を言っているのに、その意見を外には出さない。グループの周りのお母さんたちとは話したこともないと。
- 話し合いにならないんですよね。言葉を投げかけてもうなずくだけで、言葉として帰つてこない。コミュニケーションが取れないのかな。
- 懇談会で話を広げていくためには、先生や進行をする人がそれぞれの話題の共通項を見つけてそこ

から広げてくれるといいのだけれど。

- 習熟度別について質問した時は、そこから話を広げたことがありますね。先生も本音をポロッと出してね。
- 先生も時々本音を出してくれるといいんですけど、お母さんたちからの質問にバリアをはる先生もいて、何のための保護者会かと思う時もある。
- 先生も怖いんですね。責められた経験を持っているとバリアをはってしまう。本音を語れない。
- P T Aクラス委員の方から、今度はこういうテーマで懇談会をやってほしいと打ち合わせしたり、今度は学級懇談会ではなく、学年懇談会をやってほしいとか、そういう打ち合わせをしたときは、懇談会も充実したものになった。先生も安心して懇談会に臨めるし。
- 授業参観の時も、先生が親たちにどういうところを見てほしいかということを入り口のところに書いて貼っておいてほしいと頼んだことがある。それから「今先生の間で話題になっていることがありますか」とか「先生から親のこと、子どものことで聞いてみたいことがありますか」とか、言いました。
- 「何を言ってもいいんだ。聞いてくれるんだ」という経験を1回すれば、後はスーッと行くんですけどね。
- 親の伝え方もストレートすぎるところがあって、話の持って生き方が下手ということもありますね。先生にしてほしいことだけを伝えるのではなく、なぜそれをしてほしいのかという理由をきちんと説明すればいいのに。いろいろな思いの経緯を伝えないので、その思いが伝わらない。
- それも経験ですね。そういう経験を積んでいくのがP T Aという場所ですね。
- 若い親たちの考え方にも素敵な考え方がある。やる気があればものすごい力を発揮するし、思いがけない発想もすることもあるし。
- そのためには、来てもらわないといけな。入り口の扉を開けてもらわないと。
- 入り口はクラス懇談会ですね。活発な話し合いのできているクラスは、P T Aの委員もすんなり決まる。

P T Aは、本来親と教師の学習で子どものことを考えるという会



- あるP T Aでは、5年生の学年活動として性教育をしたそうです。助産師さんに来てもらって、親子一緒に話を聞いたそうです。最近わかってきたこととして子宮頸がんはウィルス感染によるものでワクチンを接種すれば予防できると。その接種対象年齢は初潮後の女の子。小学校5・6年生くらいの時から対象になる。でもそのワクチンは保険がきかないので接種費用が5~7万円かかる。松戸市は助成もないです。
- 栃木県大田原市では市の全額助成で小学校6年生女子を対象として学校別の集団接種をすることにしましたね。
- 市内の他の小学校でもP T Aの学年活動として、同じように性教育に取り組んでいるところがいくつかあります。近隣の小学校P T Aの交流会がありますから、そこで取り組んでよかったという情報が他のP T Aにも伝わって、広がっていったのだと思います。
- 性教育は本来学校できちんとやってほしいと思うのですが、学習指導要領でいろいろ制約されていることがあって（小学校では使っていけない言葉などがあるらしい）、なかなか授業としてはできないようです。学校主催の講演でも難しいらしい。P T A主催ならいいと。
- P T Aとしてもできればいいのだけれど、学年活動として取り組む学年と取り組まない学年があって、きちんとした性教育を受けられない子どもたちが出てくるのが気になる。
- うちのP T Aでは、CAP（子どもへの暴力防止・人権教育プログラム）のワークショップをどの学年も取り組めるように予算化した。
- P T Aの全体活動として取り組めばいい。
- 松戸市の助産師さんや保健師さんもお願いとP T Aにお話に来てくれますよ。本来業務に差し支えないように回数は限られていますけれど。

- これだけインターネットが普及して、子どもたちもそこから情報を得ている今、そういう話題はPTAでは出ませんか？
- 一時期、学校裏サイトの問題が大きく取り上げられたけど、今状況はどうなのでしょう？
- PTAの学習会のテーマにする問題はいろいろありますね。
- 低学年と高学年の子どもを持つ親の関心に幅がありすぎて、一つのテーマになかなか絞れません。
- 全員が関心を持つテーマということにこだわらなくてもいいのでは？
- うちのPTAは私が入った当初は全く講演会・学習会をしていなかった。どうせやっても参加者が少ないからと。講演会をやろうとする時に、大きな壁になるのが「どうせやったって20~30人しか来ないんだから意味ない」という言葉。参加者は少なくたっていい。でもやるからにはいろんな人が来やすい時間帯を考えたり、お知らせを何回も出したりという努力はする。
- 講演会を開催するには費用がかかる。少ない参加者のために皆から集めたPTA会費を使うのなら、もっと他のところに使いたい。学年活動など子どもに直に反映されるものに使いたいと言う人が多い。
- PTAは、本来親と教師の学習で子どものことを考えるという会。親と教師が学習することによって、間接的に子どもの豊かな成長につなげていく。子どもを豊かにするために、まず親がいろいろなことを身につけましようという会。これを皆の共通認識にしないと。

江東区教育委員会では、区立中学校全校を対象に、学校裏サイト等の監視を専門業者に委託し、裏サイトが発見された場合毎日監視を継続し、学校への報告、個人プロフを作成している生徒への具体的な対応、悪質な書き込み等の削除をしているそうです。

PTA総会はみんな出席しますか？

- PTA総会はみんな出席しますか？ 何人くらい集まったら良しとしますか？
- 総会が成立するための人数は必要ですが、私の経験では総会出席者は最低で会員の1割位でした。
- うちが多い時は、体育館がいっぱいになりました。先生と委員・役員で100人位になるでしょう。
- 委員以外の出席者が少ないのですが、どうしたら総会に出席してもらえるでしょうか。
- 年度初めの総会の時には先生紹介があったので、それが目的で出席する人もいた。
- それをやっても、先生紹介があるということを経験した人しか知らない。
- 総会資料を事前に配っても、それに目を通して人は少ないと思う。
- 熟読して、きちっとチェックしている人の方が少ないでしょうね。皆会費払っているのに、関心ないんですね。
- それなのに、講演会を開くというとチェックを入れる！
- 学校は子どもが毎日過ごしているところだし、子どもがそこで居心地よく楽しく過ごしているのならいいけれど、そうでないことも多いのだから、親はある程度の負担であっても、学校へ出て行く必要がある。
- PTAが先生を巻き込んだ活動をしていない。先生と親と一緒に活動することが少ない。
- 先生もPTAの一会員だという認識が薄いこともあるし、先生が忙しそうにしていると親は先生をはずした会議の日程設定をしてしまう。
- 先生も同じPTA会員で会費も納めているのだから、先生を除外することは失礼。
- 年度初めにPTA委員研修をやった時は、好評でしたね。活動がスタートする時にPTAとは何か、委員とは何かということがわかって、よかったという声が多かった。委員研修は出席率いいですよ。委員の80%くらい出席して。委員研修の内容は出席者の感想も入れて、広報委員会でまとめて全会員へ報告を出しました。



私は子育て中、PTAにずいぶん救われた

- 先日ある小学校の校長先生の話を知ったら、学校カウンセラーへ親の相談が殺到しているんですって。親はものすごい悩んでいるのだと思う。不安いっぱい仕方ない。それに相談する人が他にいないんでしょうね。
- 一歩踏み出すための働きかけを待っているのかもしれませんが。
- 人の前で自分のことを話し出すまでには、それなりの積み重ねが必要なのかも。最初は人の話を聞いているだけでも、だんだん自分の中に消化しきれないものが残って、次の時にはしゃべろうと思う。そういう経験が大事。
- 懇談会の最後に、「今日お話できなかった方や、皆の前ではいえないことがあったら、個人的に連絡くださってもいいですよ」というような雰囲気を残して、解散する。そういうことも大事だと思います。
- 誰が何を発言しても、決して馬鹿にしないこと。時に、せせら笑う人がいるけれど、それを絶対に許さないという雰囲気を作らないと。
- 初めてPTAに関わった人は、PTAの本当に基本的なこともわからない。だからそういう初歩的な質問をされると、「そうだ、初めて関わった人はこういうこともわからないんだ」と気づかされる。そういう基本的な質問は大事。
- そしてそうした質問にきちんと対応すること。きちんと受け止めないと、次から出にくくなってしまふ。
- 私は子育て中、PTAにずいぶん救われた。自分だけではないと思うことがたくさんあって、肩の力が抜けた。委員会の雑談で、いろいろ子育ての話をして、とても楽しかった。
- それが楽しいとわかってもらえると、PTA委員へのハードルが低くなると思うのだけれど。
- その楽しさを経験した人たちが他の人にきちんと伝えてほしい。
- 情報交換の場、誰かが得た情報は皆で共有する。そういう場になってくると皆入りやすい。